

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1070101041		
法人名	医療法人 群栄会		
事業所名	グループホーム みずきの家		
所在地	前橋市池端町384番地1		
自己評価作成日	平成27年5月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号
訪問調査日	平成27年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の暮らしの中で常に季節を感じながら生活できる事を大切にしたいと考えています。小さな野菜畑ですがそこでは季節に応じた野菜を育て、とれた食材を利用したおやつを作ります。毎年行っている蚕の飼育や行事、庭に咲く花、なにげない会話の中からも入居者様が日常的に季節を意識して生活して頂けるように努めています。病院併設の施設である為緊急時の対応はスムーズでご家族様や利用者様に安心して頂けます

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「個性を生かしそのらしく…」等のモットーが職員に周知されており、利用者それぞれの楽しみ事を見出し、菜園での野菜づくり(キュウリ・なす・トマト・こんにゃく等)苗植えから収穫まで利用者と職員が一緒に行う事や蚕の飼育等通して季節を感じる事にも繋がる。また、希望する買い物に出掛けて折り紙や色鉛筆の購入等、ケアに活かされ実践している事で趣味への継続支援がなされている。ホール内では職員が穏やかな雰囲気の中で対応しており、利用者の自由な言動等から安心して自由に過ごされている様子が伺えた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の方との関わりやつながりを大切にしたい理念の実践に努めている	「個性を生かしその人らしく…地域の方とのふれあいを大切に…」等の理念を職員と話し合って作成。ホールや事務所等に掲示し、管理者が申し送り時や折に触れて伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し地域活動の役割として古紙回収に協力、回覧板や広報等で情報をもらいながら地域の一員として参加している	回覧板を利用者と一緒に近隣宅へ持って行っている。看護・介護等、実習生を受け入れている。地域の畑で採れた野菜を散歩時に頂いたり、行事(敬老会)等に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の会合等で認知症の理解を深めてもらえるような働きかけは行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に定期的に開催しており貴重な意見を頂いたり情報の交換等も行っている。利用者の様子や取り組み状況は毎回報告しご意見を伺っている	隔月で年6回実施している。地域包括支援センター職員・自治会長・民生委員・家族等が参加し、利用者状況や行事の報告等行い意見交換をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	前橋市より必要に応じて情報や相談等の支援を頂いている。平成26年6月より運営推進会議には市から委託を受けた地域包括支援センターの職員が出席してくれている	市主催の研修会に参加している。空き情報を伝える等、地域包括支援センターとの情報交換を行い、連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフ全員が処遇対策委員会に属しており定期的に会議を持ち常に意識向上に努めている	委員会活動を通じて身体拘束や虐待等についての勉強会を行い、拘束はしない事を基本としている。玄関は開錠されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	苦情・身体拘束・虐待等含めて処遇対策委員会でスタッフ全員で取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々の必要に応じての対応や支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い納得と同意を得てから対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が気軽に意見や要望を出せるような環境作りに日頃より努めている。意見や要望が出た時には職員会議で話しあい反映できる事には即対応に努めている	面会時に日頃の様子を伝えながら意向等、聞き取る様にしている。面会の無い家族には電話で様子を伝え、意向を確認している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や毎日のミーティング等で日頃から意見や要望を出す機会を設けている	管理者が日常的に意見を聞いたり、仕事上の事や悩み等、個別に相談に応じている。勤務表については、事前に希望休を出してもらい管理者が作成している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に従い業務区分や勤務区分表を適切に作成し超過勤務等の縮減等を管理している。効率的な業務計画の推進を行い職場環境条件の整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人一人が目標を持ち、モチベーションを高めるよう、施設内外の研修を多く活用し教育体制強化を進めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会主催の研修や会議等に参加し同業者と交流する機会を設けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談は本人よりも家族からの電話や来訪が多く結果本人の困り事よりも家族の主張を聞いているが利用開始後に本人が困っている事、不安な事を聞く機会を多く取り早い時期に良い信頼関係が築けるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時又は後日、家族に来居して頂きより細部に亘っての聞き取りや相談を受けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の状況に応じて可能な限り柔軟な対応ができるよう努めている。母体病院や老健施設、居宅支援事業所等との連絡体制あり必要に応じた対応ができるよう相談やアドバイスしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支えあって生活していくという考え方の中で常に教えたり教えられたり、励ましたり励まされたりしながらの生活を大切にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子や変化等、日常の様子を家族に知ってもらう為、来訪時や電話にてきめ細かく伝えるようにしている。家族と一緒に過ごす時間を大切にしており必要に応じての提案や協力をしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や兄弟、姉妹等が訪ねてきたり自宅に外泊に出かけたりと交流が継続できるよう支援している	兄弟等の面会や定期的に自宅へ外出や外泊をしている。希望により取次ぎで家族へ電話をかける人もいる。好きな絵画や手芸、習字等が継続して行えるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の暮らしの中で利用者同士、和やかにお互いが自然に協力し合って生活して頂けるような支援をこころがけて対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談にのったり、情報提供等、行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや意向の自己表現が困難な方が多い為、家族からの情報や日々の関わりの中から得た情報を共有しながら思いや意向を把握していくよう努めている	日頃の会話での聞き取りや様子、ケース記録を通してケアマネージャーに伝え、意向を汲み取っている。家族との会話を大切に、面会時や電話等で希望を確認している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の情報提供と何げない会話の中からも情報を引き出せるよう努め、家族には来居時に折にふれ話を聞くようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活リズムを理解し援助していく中で心身の状態等個別の情報も共有しながら現状把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングでは職員間で意見を出し合い担当者会議にて医師、看護師等の意見やアドバイスをもらっているが本人、家族にも折にふれ思いを聞きとりながら対応している	月1回モニタリングを実施。3か月毎に介護計画の見直しは行われているが、本人・家族の意向についてケアの目標として位置付けられた明記が無く計画に反映されていない。	介護計画の作成にあたっては、本人・家族の意向を基本とし、職員間で実現に向け検討を行えるようお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人日誌の記録とは別に水分量、食事量、排泄等の個別チェック、記録、申し送りの徹底で情報を共有し見直しに活かせるよう努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてできる限り柔軟に対応している。医療連携体制を活かして、状態に応じての往診や点滴処置、他病院への通院介助等		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉事務所職員、包括支援センター等と協力しながらの支援、消防署協力の火災訓練や運営推進会議には地域の自治会長、民生委員さんが出席してくれます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の了承のもと協力医の往診を受けているが専門医の受診等、希望に応じて適切に支援している	契約時に家族へ協力医について説明している。月1回の往診がある。法人内の歯科による定期健診があり、治療の際は受診している。他の専門医への受診は家族や職員が支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的に健康面の相談しており、気づきや情報も細かく伝えるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院との連携体制ができており、ホームでの対応が可能であればなるべく早く退院し入院によるダメージを少しでも軽くできるよう支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療的処置が必要になったら病院へ、と家族には説明しており職員間でも共有している	入居時に管理者が家族へ口頭で伝えている。必要時、医師から状態変化について家族に説明している。病院が隣接であり、看取りは実施しない予定で指針の文章化はされていない。	口頭での説明のみならず、事前に家族や職員等で共有化して取組むためにも重度化等についての指針の作成をお願いしたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し法人との連絡体制は確立されている。急変や事故発生時の対応についての話し合いは適時行っているが今後訓練も検討したい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会の避難、誘導、通報訓練、を行い自主訓練も含めて年7～8回実施している。災害時における併設病院との協力体制はできており、備蓄の用意もある	H26年8月26日消防署立会の下、夜間想定避難訓練実施。自主訓練は職員のみ日中想定4回・夜間想定2回実施。非常食として、隣接の病院に3日分程度の水、米、缶詰等が備蓄されている。	不意の災害時に備え、安全に避難誘導ができるよう利用者を交えての自主訓練をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	処遇委員会での話し合いやミーティング等 でおりにふれ話し合っており、スタッフの意識 向上に努めている。排泄時の声掛けや誘 導の仕方には特にきをつけ、入室時のノック も忘れないように心がけている	特に排泄誘導の際は周りの人に注意を払い 「お部屋に行きましようか」等声掛けしてい る。入浴時はドアを開けたままにしない様注 意している。呼称は〇〇さんと徹底している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	些細な事でも本人が納得して行動できるよ うに、その方に応じた声かけを行い本人が 決める場面を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	施設としての流れはあるが、その日の状態 や気持ちをくみ取り、できる限り個性のある 支援を心がけて対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	爪、口の周りの汚れ、眼やに等にはきをつ けています。男性にはひげそりを支援し入 浴時や更衣の際には自分で洋服を選んで 頂けるよう配慮しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備 や食事、片付けをしている	昼食時は利用者と職員と一緒に同じ食事を頂き その日のメニューについてや好みについて等の 会話をしている。準備や片付け等を頼める方が 少なくなっておりテーブル拭きや食後の皿拭き位 はどうか出来る方1~2名	昼は配食業者から、朝・夕の献立は隣接の 病院で作成し、食材が届き調理して職員も一 緒に食べている。菜園があり、献立の変更は 可能で外食にも出かけている。飲み物はお 茶・コーヒー・ジュース等、都度聞いて提供し ている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に 応じた支援をしている	朝、夕食は併設の栄養課、昼食は宅配業者 より配達される。摂取量や水分量は個別に 観察、チェック表に記入し情報を共有してい る		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	声かけすればできる人、誘導や介助が必要 な人等職員は把握しており、毎食後その方 に応じた支援を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使用し、個々の排泄パターンにより誘導や見守りを行いトイレ排泄の継続や自立に向けて支援している	排泄チェック表を活用し、声掛けや誘導等自室トイレでの支援を行っている。リハビリパンツ使用者が多いが、夜間のみポータブルトイレを使用している人もいる。失禁等の際は居室にて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、野菜類、乳製品、水分摂取等は日常的に配慮して自然排便できるよう取り組んでいるが必要に応じて医師と相談し下剤での調整をしている方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	機械浴対応と一般浴対応とに分かれて入浴してもらっている。入浴の拒否がある人にはタイミングや声かけの仕方を工夫しながら支援している	日曜日以外は準備し、状態に応じて一般浴・機械浴で全員に声を掛け、1対1で週3~4回は入浴している。拒否の場合は声掛けや日を換える等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量や、夜間の就眠状態の観察を行いながら安眠につながる生活を支援している。その日の体調によっても様子をみながら休息できるよう配慮して対応している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	効能、副作用の説明書は個別に保管し全職員にわかるようにしている。処方変更があった時には申し送りを徹底し様子観察の強化や記録等に注意して対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で感じて頂けるささやかな喜びや楽しみ事を大切にしています。個別に好きな飲み物を用意したり家族との外出やおやつを持参しての訪問、好きな絵を描いて過ごす等その方に応じて支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と定期的に外出している方もいる。希望時の買い物や行事での外出支援も行っている。季節によっては外気浴や散歩等日常的に屋外にでられるよう支援している	日常的に天気の良い日は散歩をしている。家族との外出やバラ園、コスモス等ドライブを兼ねて季節のお花見に出かけている。希望による洋服や日用品、趣味の折り紙や色鉛筆等、個別の買い物と一緒に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じたお金の使い方や管理の仕方を家族と話しあいながら支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話があったり、希望に応じて電話で家族とやり取りができるようその都度対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールから見える庭の一部は菜園になっている。そこからは野菜の生育をながめたり季節の草花を飾り、畳敷きのスペースには掘こたつがあり季節を感じて頂けるよう配慮している	利用者が描いた絵画の展示や季節の花がテーブルに飾られている。畳、掘り炬燵のスペースがあり、横になったり自由に過ごせる環境となっている。臭いも無く清潔感がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下の壁面に写真コーナーがあり折にふれ楽しめるようにしている。ソファを置き一人になれる場所も確保、畳敷きのスペースも有効活用されている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には家具等の持ち込みは可能である事は伝えている。自分で作った作品や絵を飾ったり思い出の写真や家族からのお花等を飾り思い思いに工夫されている	絵画や手作りが壁に貼ってある。テレビ・筆筒・テーブル・帽子・洋服掛け等持ち込まれおり、個別に過ごし易い居室づくりがなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	混乱や不安の原因を探りながら状況に合わせて環境整備を行い、安全でできる限り自立した生活が送れるよう工夫している		